

不動点集合の次元について

阪大理 川久保 勝夫

§ 1. 序

Lie 群 G が多様体に作用している時, 不動点の色々な性質を調べることは, 変換群の研究のうちで興味ある問題の一つと思われる。今回は不動点集合の次元について限って考察してみたい。

少しく歴史を振り返ってみよう。この種類の問題については Conner - Floyd [3] が involution の時 Euler characteristic との関係で次元を評価したのが最初であると思われる。その後 Boardman [1] が, この結果を unoriented bordism との関係に拡張し, best possible に追精密化した。semi-free S^1 -action に関しては多様体の index との関係に於て, 内田-川久保 [6] が不動点集合の次元を評価し, Ossa [8] は bordism との関係で評価した。

regular Z_p -action に関しては index との関係
 及び oriented bordism との関係で、不動点集合の次元
 を評価した [5]。一般の Z_{p^r} -action に関しては
 tom-Dieck の U -cobordism で実行した [9]。

又 $(Z_2)^k$ -action では U 及び \mathcal{R} で可能である。やむ
 を得ないことであると思うが、indecomposable な元
 以外は、不動点の集合の次元が何以上という形にはなっていない。
 しかしこの結果は画期的でその方法は Conner-
 Floyd の bordism theory と Atiyah-Bott-Segal
 -Singer の localization を結びつけたものである。
 この萌芽は Conner [2] に既に見られる。

こゝでは oriented cobordism version を示してみたい。
 $(Z_2)^k$ -action に関しては余り満足ゆく結果が得ら
 れないので省略する。 Z_{p^r} -action に関しては

Koernikowski が mimeographed [7] で Atiyah
 -Bott の G -signature theorem の整数論的考察を
 やったのだが筆者には証明にならなかったように思われな
 い。そこで別証を示してみたい。

証明は夫が、ほかに言うと tom-Dieck の U を Ω
 で証明し万が一という方針。 U より Ω の方が少しやさし
 いが結局 $\otimes Z[\frac{1}{2}]$ 又は $\otimes Z_p$ で考えようということか

分り, 又不動点集合の normal bundle の complex structure は U の場合と異なり, action により入れないので U の場合の半分がよく, 他は $\Omega_* \otimes Z[\frac{1}{2}]$ が U の半分があるといふこととか, うまく対応してゐる等々。

定理を述べるために, 次の notation を導入しよう。

$$\{\Omega_0, \Omega_4, \Omega_8, \dots, \Omega_{4j}\} \quad 1 \leq j \leq 2$$

生成される $\Omega_* \otimes Z_p$ の subring を $\Omega(4j)$ と書く。

又不動点集合の次元 $\leq k$ であるような Z_{p^r} -action を許す多様体により, 2 次表される元全体により生成される

$\Omega_* \otimes Z_p$ の subring を $F(Z_{p^r}, k)$ と書く。

この時 次の定理が成り立つ。

$$\text{定理} \quad \begin{cases} F(Z_{p^r}, 4k) = \Omega(4kp^r + 2p^r - 2) \\ F(Z_{p^r}, 4k+2) = \Omega(4kp^r + 4p^r - 4). \end{cases}$$

系 1 [M] : indecomposable in $\Omega_* \otimes Z_p$ の時
M 上の任意の Z_{p^r} -action に於て 2 次の不等式が成り立つ。
る。

$$\frac{\dim M + 2}{p^r} - 2 \leq \dim F$$

ここで F は不動点集合のうち r 次元か $r-1$ 次元のものがある。

注意 Koenigsmann [7] にも類似の定理があるが、上の系は best possible なので Koenigsmann の評価は、誤りと思われる。

系 2, 任意の $X \in \mathbb{R}^m$ は不動点の集合の次元が $\leq \frac{m}{p^r}$ なる action を許す多様体を代表される。

§ 2. 証明のあすすじ.

$G = \mathbb{Z}_p^r$ とおく. $\gamma_k: E_k^{SO}(G) \rightarrow B_k^{SO}(G)$ を universal k 次元 real G -vector bundle とする.

$MSO_k(G)$ をその Thom space と表わす. $\Sigma^k \mathbb{Z}_p^r$ を pointed G -space とみる.

V : real G -module とし $V^c = V \cup \{\infty\}$ を 1-point compactification とする.

この様な V 全体は direct system をなし, 次の

equivariant G -cobordism が定義される。

$$\Omega_G^n = \varinjlim [V^c, \text{MSO}_{\dim V + n}(G)]_G^0$$

V : real n -dim G -vector space

$$\begin{array}{ccc} V & \longrightarrow & E^{SO_n}(G) \\ \downarrow & & \downarrow \\ \text{pt} & \longrightarrow & B^{SO_n}(G) \end{array}$$

t classifying map があり、自然に

$$t(V) : V^c \longrightarrow \text{MSO}_n(G)$$

t induce する。 $t(V) \in \widetilde{\Omega}_G^n(V^c)$ を Thom class と呼ぶ。 $s : S^0 \longrightarrow V^c$ を 原点を基点に行く写像を L とする。 $e(V) = s^* t(V) \in \widetilde{\Omega}_G^n(S^0) \cong \Omega_G^n$ を V の Euler class と呼ぶ。

$$S = \left\{ e(V) \mid V: \text{trivial summand を含まない} \right\}$$

real G -module

とある Ω_G^* の multiplicative set である。

S による Ω_G^* の localization は $S^{-1}\Omega_G^*$ である。

$\lambda : \Omega_G^* \longrightarrow S^{-1}\Omega_G^*$ による自然な写像を表す

$\sigma = \epsilon = 1$ である。

次に bundling map と呼ばれるものを定義しよう。
 先ず $EG \rightarrow BG$ を universal principal
 G -bundle とする。この時

$$\Omega_G^* \xrightarrow{\alpha} \Omega^*(BG)$$

を次の字列の composition により induce される字列を
 定義する。

$$\begin{aligned} & [V^c, \text{MSO}_{k+|M|}(G)]_G^0 \\ & \rightarrow [V^c \wedge EG^+, \text{MSO}_{k+|M|}(G) \wedge EG^+]_G^0 \\ & \rightarrow [V^c \wedge EG^+/G, \text{MSO}_{k+|M|}(G) \wedge EG^+/G]^0 \\ & \rightarrow [V^c \wedge EG^+/G, \text{MSO}(k+|M|)]^0 \\ & \rightarrow \Omega^{k+|M|}((V^c \wedge EG^+)/G) \\ & \rightarrow \Omega^k(BG) \end{aligned}$$

この α による字列は Ω_G^* という計算しにくいものを普通
 の cobordism に関係づけたという大きな意味がある。

$\Omega^*(BG)$ の Euler class を定義しよう。
 先ず V : real G -module 考へ、universal
 principal G -bundle $EG \rightarrow BG$ に
 associate した次の bundle を考へよう。

$$\begin{array}{ccc} V \times EG/G & \longrightarrow & E^{SO}(|V|) \\ \downarrow & & \downarrow \\ BG & \longrightarrow & BSO(|V|) \end{array}$$

上の diagram は classifying map を示す。
 この写像は自然に $f: V^c \wedge EG^+/G \rightarrow MSO(M)$
 を induce する。 $s: BG \rightarrow V^c \wedge EG^+/G$ を
 zero cross section を表わす時、

$$e(V) \stackrel{\text{def}}{=} [fs] \in \Omega^M(BG)$$

上で定義した α は Euler class を preserve する。
 前と同様

$$S = \{e(V) \mid V: \text{trivial summand を含む real } G\text{-module}\}$$

とあくと $\Omega^*(BG)$ の multiplicative set とする。
 S による $\Omega^*(BG)$ の localization は $S^{-1}\Omega^*(BG)$ と
 書き $\wedge: \Omega^*(BG) \rightarrow S^{-1}\Omega^*(BG)$ をその自然な写像と

表わすことにする。 α が Euler class を preserve
するにせよ。 次の diagram が出来る,

$$\begin{array}{ccc} \Omega_G^* & \xrightarrow{\alpha} & \Omega^*(BG) \\ \downarrow \lambda & & \downarrow \wedge \\ S^1 \Omega_G^* & \xrightarrow{S^1 \alpha} & S^1 \Omega^*(BG) \end{array}$$

又 $1 \text{ pt} \rightarrow BG$ 写像により $\Omega^*(BG) \xrightarrow{\pi} \Omega^*$
 Ω^* が induce され, 又 $\Omega^* \xrightarrow{D} \Omega_{-*}$ 写像自然な写
像がある。 以上は可算 spectrum より定義された
cobordism であり幾何学的な cobordism は勿論
あり。 それを $\mathcal{G}\Omega_*^G$ と書くことにすると, Pontryagin
Thom construction により

$$\iota: \mathcal{G}\Omega_*^G \rightarrow \Omega_*^G$$

を得るが一般には ι は同型ではない。

又 G -action に対し Σ の不動点集合と normal
bundle (表現空間 Σ) を対応させることにより

$$F: \mathcal{G}\Omega_*^G \rightarrow \bigoplus \Omega_*^G(\pi BU(m_i))$$

とある。

補題 1. 次 n の字像の結合

$$g \Omega_n^G \xrightarrow{i} \Omega_n^G \xrightarrow{\alpha} \Omega^{-n}(BG) \xrightarrow{\pi} \Omega^{-n} \xrightarrow{D} \Omega_n$$

は G -action (M^n, G) への $[M] \in \Omega_n$ への字像である。

補題 2. $D\pi \Lambda^{-1}(0) = p \Omega_n$

補題 3. Ⅱ: $S^{-1}\Omega_*^G \cong \Omega_* (\prod_j BU) \otimes \mathbb{Z}[V_j, V_j^{-1}]$

ここで $1 \leq j \leq (p^r - 1)/2$ として V_j は complex 1 次元の vector space として \mathbb{Z}_p -action は generator $\exp 2\pi i/p$ として $\exp 2\pi j i/p$ 倍して作用するものとする。

次に $\bigoplus \Omega_*(\pi BU(n_j)) \xrightarrow{\omega} \Omega_*(\prod_j BU) \otimes \mathbb{Z}[V_j, V_j^{-1}]$ を定義しよう。

$$b : \pi BU(n_j) \rightarrow \pi BU$$

を stabilize map と表わすとき

$$\omega(y) \stackrel{\text{def}}{=} b_*(y) \otimes \pi(V_j^{-n_j}).$$

次に $\nu : BU \rightarrow BU$ を H-space inverse map

を表わし、その積を $\pi = \pi \circ \nu$ とおく。

補題 4. 次の diagram は可換である

$$\begin{array}{ccc}
 \mathcal{G} \Omega_*^G & \xrightarrow{\quad i \quad} & \Omega_*^G \\
 \downarrow \text{F} & & \downarrow \lambda \\
 & & S^{-1} \Omega_*^G \\
 & & \cong \text{III} \\
 \bigoplus \Omega_*(\pi B U_{n_j}) \xrightarrow{(\lambda \otimes 1) \cdot \omega} & \Omega_*(\pi B U) \otimes \mathbb{Z} [V_j, V_j^{-1}] & .
 \end{array}$$

前にも出て来た diagram の一部を $\otimes \mathbb{Z}_p$ を書くと

$$\begin{array}{ccccc}
 \Omega_*^G \otimes \mathbb{Z}_p & \xrightarrow{\alpha \otimes 1} & \Omega^*(BG) \otimes \mathbb{Z}_p & \xrightarrow{\pi \otimes 1} & \Omega^* \otimes \mathbb{Z}_p \cong \Omega_* \otimes \mathbb{Z}_p \\
 \downarrow \lambda \otimes 1 & & \downarrow \lambda \otimes 1 & & \\
 S^{-1} \Omega_*^G \otimes \mathbb{Z}_p & \xrightarrow{S^{-1} \alpha \otimes 1} & S^{-1} \Omega^*(BG) \otimes \mathbb{Z}_p & & \\
 \cong \downarrow \cong \otimes 1 & & & & \\
 \Omega_*(\pi B U) \otimes \mathbb{Z}_p [V_j, V_j^{-1}] & & & &
 \end{array}$$

補題 2 より次を得る

補題 5 $(D \otimes 1) \cdot (\pi \otimes 1) \cdot (\lambda \otimes 1)^{-1} \cdot (S^{-1} \alpha \otimes 1)$ は

Image $(\lambda \otimes 1)$ 上 \mathbb{Z} -well-defined ring homomorphism.

この2次の記号を導入する

$$F_k = \left\{ \bigoplus_{i \in k} \Omega_i(\prod_j BU) \otimes \mathbb{Z}_p[V_j^{-1}] \mid \text{生成される subring} \right\}$$

$$D_k = F_k \cap \text{Image} \{ (\mathbb{Z} \otimes 1) \cdot (\lambda \otimes 1) \}$$

この定理の

$$F(\mathbb{Z}_{p^r}, 4k) = \Omega(4kp^r + 2p^r - 2)$$

を証明しよう。

$$F(\mathbb{Z}_{p^r}, 4k) \supset \Omega(4kp^r + 2p^r - 2)$$

は実際に構成可能ならばよく、tom-Dieck [9] の §37 に従えばよい。逆の方が問題がある。

F_{4k} は $kp^r + \frac{p^r-1}{2}$ 個の不定元の \mathbb{Z}_p 上 polynomial ring とする。

今 G -action (M, G) で $[M] \in F(\mathbb{Z}_{p^r}, 4k) - \Omega(4kp^r + 2p^r - 2)$ と仮定しよう。明らかに

$$(n \otimes 1) \cdot w \cdot [M, G] \in D_{4k}$$

となる。

一方上の包含関係を示す時に、たいてい次の値をとりうる可能性がある。 \mathbb{Z}_{p^r} -写像体 (M_i, \mathbb{Z}_{p^r}) で

$$(i) \quad \dim M_i = 4i$$

$$(ii) \quad (m_* \otimes 1) \cdot w \cdot F[M_i, Z_{p^r}] \in D_{4k}$$

(iii) $[M_i]$ は $\Omega_* \otimes Z_p$ の生成元である。

D_{4k} は F_{4k} の一部であるから Z_p 上の超越次数は
高々 $k p^r + (p^r - 1)/2$ である。上で作, 例により

D_{4k} には既に

$$(m_* \otimes 1) \cdot w \cdot F[M_i, Z_{p^r}] \quad i=1, 2, \dots, k p^r + (p^r - 1)/2$$

という $k p^r + (p^r - 1)/2$ 個の代数的に独立な元が存在する

この集合に $(m_* \otimes 1) \cdot w \cdot F[M, Z_{p^r}]$ を加えても代数的
に独立でなくなる。よって補題 1 及び 4 により

$$[M], [M_i] \quad i=1, 2, \dots, k p^r + (p^r - 1)/2$$

は代数的に独立でない。 $\Omega_* \otimes Z_p$ は 各 $4i$ 次元に生成
元をもつ polynomial ring であるから 命題の仮定は
上の集合が代数的に独立であることと示し 2 である, 矛盾
がある。よって

$$F(Z_{p^r}, 4k) \subset \Omega(4k p^r + 2p^r - 2)$$

が示された。

他の等式

$$F(Z_{p^r}, 4k+2) = \Omega(4k p^r + 4p^r - 4)$$

も同様である。

又 系 1 は定理よりすぐ出さし 系 2 は定理を帰納的に

従うことにより証明される。

注意2 Conner - Floyd [4] は Z_p が M に不動点なしに作用した時 $p \mid [M]$ in SL^* を示した。よって 不動点集合の次元を調べるのに $\otimes Z_p$ を用いるのが自然である。

注意3 内田 [10] は $SU(m)$ action 等 non abelian group action については不動点なしに動く場合が多いことを示し abelian group についてはこの種の問題については全く違った様相を呈することを示した。

注意4 定理は $k=-1$ とおくことにより Conner - Floyd [4] の結果を含まない。

参考文献

- [1] Boardman, J. M.: On manifolds with involution, Bull. A. M. S. 73 (1967), 136-138.
- [2] Conner P. E.: Seminar on Periodic Maps, Springer-Verlag 46 (1967).
- [3] Conner P. E. and Floyd E. E.: Differentiable periodic maps. Springer (1964)
- [4] _____: Maps of odd period, Ann of Math. 84 (1966) 132-156.
- [5] Kawakubo K.: The index of Z_p -actions (mimeographed).
- [6] Kawakubo K. and Uchida; The index of a semi-free S^1 -action, J. Math. Soc. Japan 23 (1971), 351-355.
- [7] Kosniowski C. What the fixed points say about a Z/p manifold, (mimeographed).
- [8] Ossa E. Cobordismtheorie von Fixpunktfreien und semi-freien S^1 -manigfaltigkeiten. Thesis Bonn (1969).

[9] Tammo tom Dieck ; Periodische Abbildungen
unitärer Mannigfaltigkeiten, *Math. Z.* 126, 275-
295 (1972).

[10] Uchida F. 不動点をもたない $SU(m)$ 作用を許す
弱複素多様体について. (these proceedings).